

## 平成 30 年度 第 9 回帯広市総合計画策定審議会 議事概要

日 時 : 平成 30 年 12 月 19 日 (水) 18:30~20:50  
場 所 : 帯広市役所 10 階第 5B 会議室  
出席委員 : 金山会長、岩田委員、氏委員、太田委員、川上委員、河野委員、小山委員、柴田委員、日月委員、林委員、森委員、渡辺委員 (以上 12 名)  
説明員 : 池原政策推進部長、石井政策推進部企画調整監、西尾企画課長、  
(事務局) 中西企画課主査、高橋企画課主査、千葉企画課主査、  
廣澤企画課主任、土田企画課主任、西嶋企画課主任補、佐藤企画課主任補  
傍聴者等 : 報道関係者 2 名  
配付資料 : 会議次第、委員名簿、答申書 (案)

### ◆会議次第

1. 開会
2. 議事
  - (1) 答申案について
  - (2) その他
3. 閉会

### ◆議事概要

【事務局】 18 時 30 分時点で、委員 15 名中、12 名の委員が出席し、過半数に達しているため、帯広市総合計画策定審議会条例第 6 条第 2 項の規定により、会議が成立していることを報告する。

【会長】 この審議会は、本年 5 月に市長から新しい総合計画の策定にあたって意見提言するよう諮問され、これまで様々な議論を重ねてきた。

本日の議題は「答申案について」であり、本審議会として、答申に向けた議論は基本最後となる予定である。

それでは、「答申案について」事務局より説明をお願いする。

【事務局】 — 資料「答申書 (案)」により事務局説明 (「1. 時代の潮流」から「4. 都市形成に対する考え方」まで) —

【会 長】 ここまでの説明について、確認したいこと、質問等があれば、発言  
いただきたい。

— 特になし —

【事 務 局】 — 資料「答申書（案）」により事務局説明（「5. まちづくりの分  
野別の方向性」から「6. 総合計画推進の考え方」まで） —

【会 長】 一通り答申案の説明が行われたので、全体を通して、又はご自身の  
専門分野などについて、意見、質問等があれば、発言いただきたい。

【委 員】 前回（10 年前）の答申と比べて構成が変わっている部分がある。  
前は、まちづくりの基本的な考え方の中で、「帯広市の地域特性」  
や「まちづくりの理念の継承」など、いわゆる帯広市の立ち位置が記  
載されているほか、「めざすまちの姿」として8つの分野別に方向性  
を示していた。今回の答申案ではこうした内容を「まちづくりの基本  
的な考え方」に集約していると思うが、これでは帯広市がどのような  
ことを目指しているのか分かりにくいのではないか

【事 務 局】 「時代の潮流」でお示ししたとおり、課題が複雑・多様化している  
状況の中で、前回同様、帯広市の立ち位置を分野毎にまとめようとす  
ることが難しかったため、今回は3つの視点で、まちづくりの基本的  
な考え方や方向性をまとめている。

【委 員】 これまでどおりの考え方では捉えきれないことは理解できるが、そ  
の中でも、どこに軸を置いて取り組むのかが重要ではないか。

【委 員】 課題や方向性など全体的に網羅されているが、長所や特徴が分かり  
にくいので、メリハリを付けて表現する方が良いのではないか。

10 ページの生涯学習の中に「市民が生涯にわたり学び」とあるが、  
どの年代の市民を指しているのか分かりにくい。キャリア形成は働く  
世代を対象としており、高齢者にはあまり関係がないと思う。高齢者  
の学びは市民活動に活かせるのではないか。このように年代によって

学びの還元の仕方が変わるので、書きぶりを検討いただきたい。

また、同じページの文化について、帯広は文化が盛んな地域であるが、鑑賞マナーが今一つである。市民全体で鑑賞マナーを育てることも必要であるとする。先日テレビ番組で、図書館活動が活発な地域では生き生きとした高齢者多いという話をしていた。AIでデータ分析した結果とのことであったが、このような図書館における活動も文化の基盤を育むことになるのではないか。

【会 長】 標題が文化芸術となっているが、芸術に関する記述が多く、文化の内容が少ないのではないかと。

【事務局】 文化に関する記述については、検討したい。

生涯学習のキャリア形成については、世代に応じて学んだことを還元する先が変わってくると思うので、誤解のないようにしたい。

また、まちづくりの基本的な考え方については、これまでの延長線の考え方でまちづくりを進めていくことは困難になるとの前提で、これまで帯広市が進めてきた「都市と農村が調和するまち」などを継承しながら、新しい価値を創造するなど、これまでとは違う考え方を取り入れながらまちづくりを進めていくことが必要と考える。全体的に網羅的で特徴がないとのご指摘だが、総合計画という性格上、このような表現となっている。

【事務局】 総合計画なので取扱う分野は幅広く、総論的な書き方になってしまう。様々な分野のつながりという視点など、委員の皆様の意見を生かしてまとめさせていただいた。

【委 員】 答申書には、時代背景は書かないという整理ということで良いか。例えば、男女の格差はまだ存在しているが、こうした時代背景などは記載しなくて良いのか。

【会 長】 男女共同参画の考えは、5ページの「誰もが互いに尊重し合い」や、11ページの「年齢や性別に関わらず」の中に入っているなど、「まちづくりの基本的な考え方」や「まちづくりの分野別の方向性(商工業)」

で示していると思う。

第六期総合計画では具体的な取り組みを記載していたが、今後の見通しが難しく、時代の変化が急速に進んでいる中、10年間のまちづくりを考えた時、具体的な事業を記載することが難しい。もう少し具体的な事業を記載する方が良いという意見もあるだろうが、実情としては難しく、事務局も取りまとめで工夫したところだと思われる。

【委員】 答申書の中で「帯広市」と「十勝・帯広」という表現があるが、ここでいう「十勝」とはどこを指しているのか。

【事務局】 例えば、10～11ページの産業振興分野のうち、商工業や観光のように、十勝全域で共通的に取り組んでいることは「十勝・帯広」と表現している。また、帯広市に特徴なことであれば、「帯広市」と表現している。

【委員】 個人的な印象であるが、5ページのまちづくりの基本的な考え方の中にも「十勝・帯広」という表現があり、この表現だと、帯広市の総合計画にも関わらず、十勝優先で、十勝に引っ張られているように見えてしまう。

【事務局】 十勝の中の帯広ということ伝えてある部分もあれば、帯広を前面に出している部分もある。

【会長】 帯広市の枠組みだけで物事を見ていると、地域の活性化は難しいのではないかと。

【委員】 9ページの学校教育で、「学校・家庭・地域が連携しながら」とあるが、企業も連携している機会が多いので「学校・家庭・企業・地域」という記載にしてはどうか。

9ページの高等学校教育について、南商業高校の記載が中心となっているが、他の高校との連携についても入れるべきではないかと。

10ページの文化については、先ほどの他の委員からの意見と同様

に、芸術のみの記述になっている。帯広には、アイヌ文化や八千代遺跡等の独自文化があるため、例えば、文化と芸術を別章としてはどうか。

10 ページのスポーツで、「大会や合宿の誘致」とあるので、それらを受け入れる施設の充実も必要ではないか。

12 ページの安全・安心な地域づくりの中に、火葬場が入っているのは違和感があるのではないか。

**【事務局】** 第六期総合計画において、火葬場は施策のひとつとなっており、今後も安全安心な地域づくりに資する取り組みであると考えているが、ご指摘を踏まえ検討したい。

学校教育における「企業」との連携の記載についても検討したい。

高等学校教育については、市として取り組めるのが南商業高校と捉えてそのような記載としているが、他の高校とどう連携できるかについて精査したい。

文化については、先ほどのご指摘を合わせて精査したい。

スポーツの受入施設整備についても、どこまで具体的に書けるか全体を見ながら整理したい。

**【委員】** 帯広は道東地区のキーポジションにある。自動車会社の本社を釧路から帯広に移す動きも出てきており、また、十勝のリーダーとして、フードバレーとかちや、消防の広域化などの取り組みも進めてきている。

そのような中、帯広・音更は、道内でもトップクラスの高齢化が進んでいない市町となっているが、その他の管内町村は高齢化が進んでいる現状にある。

帯広では、新たな厚生病院が完成し、総合体育館も建設中であることから、今後10年を見据えた帯広の取り組みとしては、健康をキーワードとしたヘルスツーリズムを考えるべきではないのか。取り組みの結果、医療費が削減され、財政の健全化を図ることができることが理想である。

【事務局】 ヘルスツーリズムについては、健康、スポーツ、観光など複数分野の連携が必要になると考えており、答申案の観光においては、健康やスポーツを含めた「地域の強みを活かした魅力あるコンテンツの開発」が重要であるとの認識をしているところである。

【委員】 答申なので、具体的な記載が難しいのは理解できる。今後、総合計画を策定するにあたっては、どのような作業をしていくのか。

【事務局】 答申書の内容をもとに、庁内で総合計画の素案を作成し、帯広市議会に報告する。また、帯広市議会に報告した総合計画の素案は、皆様にもご意見をいただくことになる。

【委員】 市の各担当部署と一緒に作っていくということか。

【事務局】 各担当部署を含め、答申書はもとより議会をはじめとした市民からの意見を踏まえながら、庁内一体となって策定作業を進めていくことになる。

【委員】 7ページの保健について、北海道はがん死亡率が高いという実態があることから、今後10年を見据えて、「生活習慣病」に加えて、「悪性疾患の早期治療、早期発見」という文言を入れるべきではないか。

10ページのスポーツについては、帯広は、オリンピック選手を多く輩出しているので、例えば「世界に通じるアスリートを育成する基盤づくり」という記述を加えることができないか。

【事務局】 ご意見は、「スポーツ活動を広くまちづくりにつなげていく」という一文で表現しているが、全体のバランス考えて検討したい。

【委員】 13ページの都市基盤について、帯広は一人当たりの公園面積が道内トップクラスであるとか、半世紀前から帯広の森という先進的な取り組みを進めているなどの特徴があるが、公園施設の老朽化、街路樹の老木化など、前向きな表現がない。

13ページの上下水道については、帯広市は水がおいしいという特

徴があるにも関わらず、施設の老朽化のみの記載となっているので、もう少し、肯定的・前向きな表現があっても良いのではないかと。

【事務局】 いただいたご意見のとおりであるが、一方で、人口減少が確実に進む中で、施設や樹木の維持管理については目をそむけてはいけない課題であると考えている。

【会長】 人口減少の中で、帯広の良さ、魅力をどう育て伝えるか、もう少し工夫していただきたい。

【委員】 7 ページの高齢者福祉について、地域包括ケアシステムの説明を「医療・介護・予防・住まい及び自立した日常生活の支援」としているが、厚生労働省の資料では「住まい・医療・介護・予防・生活支援」となっているので、書きぶりを合わせるべきではないかと。

8 ページの障害者福祉について、「障害者」と「障害のある人」と混在しているので、表現を合わせるべきではないかと。

【事務局】 定義を確認した上で、表現については整理したい。

【委員】 答申案に、「フードバレーとかち」という言葉を盛り込まなくても良いのか。

【事務局】 フードバレーとかちの考え方は「産業間連携」において記述している。

【委員】 10 ページの農林業について、市場経済にかかる記述はあるが、農業は、食文化、健康、教育にも関係することなので、そのような視点の表現を加えてはどうか。

【事務局】 食育などの観点も重要だと認識しているので、いただいたご意見をどのように反映させるか検討したい。

【委員】 答申の中に、これからの帯広に対する期待感を持つような言葉を入

れることができないか。子ども、教育、地域、それぞれがキラキラと輝くことが表現されていると嬉しい。

【事務局】 子どもという観点で言えば、これからの帯広市の担い手として重要であり、学校、地域で育てていく、という視点は入れているが、表現については、検討させていただきたい。

【会長】 本日いただいた意見の取り扱いや、最終的な文言の整理などを、私に一任いただいて、答申としてまとめることでよろしいか。

—（「異議なし」との声）—

【会長】 それでは、そのようにさせていただきたい。

これまで、新しい総合計画の策定に向けて、委員の皆様には、9回にわたって議論いただいた。

人口減少・少子高齢化の急速な進行やグローバル化、技術革新の進展などが予想される中、10年先を見据えながら、市全体のまちづくりについて考えることは、大変難しかったのではないかとと思われる。

帯広はこれからも輝き続けることができると思う。ただし、そのためには、施設の維持管理コストの削減など、効率的な運営が必要であり、これからは行政のみならず、市民の取り組みが一層重要になってくると感じたところである。

空想的な理想論ではなく、帯広の素晴らしさがこれからも続くための答申書として取りまとめることができればと考えている。

委員の皆様には、毎回お忙しい中にもかかわらず集まっていたいただき、建設的な意見をいただき、ここまで来ることができたことを感謝したい。

本当にありがとうございました。

以上をもって、本日の会議を終了する。

以上